

委員会だより

< 11月7日(日) 11名出席 >

- 行事計画の確認
 - 11月14日(日)七五三・・・該当者4名
 - 11月21日(日)初聖体・・・森脇真美、石井築雄
 - 12月18日(土)10時より大掃除
 - 12月24日(金)主の降誕夜半ミサ 午後8時から
→ミサ後のパーティーについては、ヨゼフ会、マリア会でも検討し、12月の委員会で決める。
- 教会建物関係修繕について
 - ◆特別建設献金状況・・・10月31日現在、約724,000円
- 聖公会・聖クリストファー教会との合同祈祷集会について
 - ◆11月14日(日)合同準備委員会。
 - ◆中和田教会からは、グルニエ神父、竹内氏、阿部(寿)さんが委員として出席。
- 布教委員会報告(竹内委員)
 - ◆10月17日(日)第5地区福音宣教委員会定例会開催。
 - ◆湘南短期キリスト教セミナーは好評で、中和田教会のチケット販売枚数は昨年を上回っている。
 - ◆次回定例会は2005年1月24日(日)13時30分より原宿教会「めぐみの家」にて開催。この会では、福音宣教委員以外にも共同宣教司牧に関心のある人の参加を求め、グループの分かち合いと全体会を行なう予定。
 - ◆「泉区民クリスマス」は12月23日(木・祝)、緑園都市のフェリス女子大ホールにて開催。今年はグルニエ神父様がクリスマスメッセージと平和の祈りを捧げる予定。
- 2005年度信徒総会について
 - ◆開催予定日時: 2005年1月30日(日)ミサ後
- グループ形成について
 - ◆グループ形成について話し合いがもたれたが、更にもう少し検討を重ねる。
- 各委員会・グループからの報告、提言、連絡
 - ① 財務委員
 - ◆バザー収益の報告 11月7日時点で、612,846円
 - ◆特別建設献金の報告 11月7日時点で、1,489,289円(マリア会からの寄付50万円を含む)
 - ② 要理委員
 - ◆12月5日(日)ミサ後、中学生会へ向けての基礎作りを目的に、親睦を兼ねて現中学生1名と小6生2名をお台場へ引率する予定。(引率者伊藤神学生、井上委員)教育養成費から15000円を支出(承認)
 - ◆11月23日(祝・火)、東京神学院「ザビエル祭」に要理学校の子どもたちを連れて行く。交通費支出を承認
 - ③ 典礼委員
 - ◆結婚式に際し教会として申し受ける金額を、今後神父様への謝礼ぬきで5万円とすることを承認。

婦人会だより

< 11月21日(日) 32名出席 >

1. 始めの祈り、病者のための祈り
2. 委員会報告
3. 第5地区福音宣教委員会報告(石川さん)
4. 聖公会・聖クリストファー教会との合同祈祷集会について(阿部さん)
 - ◆第1回合同祈祷集会は05年1/16(日)2時からを予定。
5. バザー反省会

少ない人数で大変でしたが、みなさんのご協力が無事に終えることができました。お疲れさまでした。



婦人会(マリア会)の収益は、291,273円でした。

<反省事項>

- ◆人数が少ないため、忙しい売り場もあり、人数配置の検討が必要。
 - ◆若い方たちにも是非参加していただきたい。
 - ◆ガス器具に関して、ガス屋さんのいるところで点検・点検をした方がよい。
6. クリスマスのミサ後のパーティーについて(委員会よりの検討事項)

時間も遅いので、ティーパーティーにした方がよい、という意見が多数でした。
 7. グループ形成について(委員会からの検討事項)

各委員会の活動内容を明確に示した上で、一斉に募集をする。そのために、運営委員会のようなものを設置して検討していただく。
 8. お知らせ
 - ◆購入申込み受付・・・プロポリス、玉こんにゃく。
 - ◆お茶の購入申込みは、12月例会時に受け付けます。
 - ◆12月23日の「区民クリスマス」にはお知らせも誘って出かけてください。(石井さん)

【次回例会は12月19日(日) 聖堂の掃除用具当番と例会のお茶当番はA地区】

壮年会だより

< 11月21日(日) 17名出席 >

1. 委員会報告: 詳細略。
2. バザー総括:

バザー収益は総計612,846円であったが、そのうちヨゼフ会収益は24,411円。

反省事項として下記の意見、議論があった。

 - ◆古本市が振るわなかったが、本の選び方を考えた方がよいかも。(小谷さんより経験談に基づく激励あり。)
 - ◆今回は、下ごしらえをしっかりやったので「焼きそば」の評判がよかった。
 - ◆串が焦げている「焼きとり」の指摘を受けたとの話あり。
 - ◆子ども向けイベントの盛り上りが足りなかった。
 - ◆バザー後の後片付けはきちんとやって欲しい。
 - ◆物置の使い方に課題あり。委員会で検討してもらおう。
 - ◆他教会のやり方も調べて、更にいろいろ新しいやり方も考えたらどうか(グルニエ神父)。

例えば、近所に住む外国人の方のコーナーなど設けてみたら? また、「寄付金」の送り先に関する提案があれば、教会委員まで連絡することを確認。
3. 教会建物特別献金:
 - ◆(マリア会からの寄付50万円を含む)11月7日現在1,489,289円集まった。教区からの借入れは困難との情報あり。 11/21に甲斐さんが教区に赴き打合せる。
4. 聖公会・聖クリストファー教会との合同祈祷集会:
 - ◆11月14日に合同準備委員会が開催され、第1回目合同祈祷集会は2005年1月16日午後2時から行う方向で調整中。
 - ◆場所は中和田教会で、司式はグルニエ神父、説教は聖クリストファー教会の片山司祭が担当する。
5. 12月24日降誕ミサ後のパーティに関する意見:
 - ◆ミサ後すぐ帰られる方々に対する配慮が必要(小谷さん)
 - ◆クリスマス本来の意味をよく考え運営願う(東原さん)
6. 10-12月の当番表の更新を行った。
7. 布教グループ報告:
 - ◆竹内さんより資料配布され、説明があった。
 - ◆特に泉市民クリスマスで、今年はグルニエ神父がクリスマスメッセージと平和の祈りを捧げる。
 - ◆中和田の出し物は小谷さんのハーモニカ独奏(小谷さんより子供達のハーモニカ教室に関する要請あり)



広報 なかわだ

12月の予定

委員会	12月 5日
壮年会、婦人会	12月 19日
大掃除	12月 18日
主の降誕深夜ミサ	12月 24日(8:00pm)
主の降誕ミサ	12月 25日(10:00am)

第307号

2004年 12月号

中和田カトリック教会
広報委員会発行
泉区中田北1丁目9-1
Tel. (045) 803-6141
<http://www.paw.hi-ho.ne.jp/nakawadacatholic/>
平成16年12月5日



美しいとき、クリスマス

主任司祭 ジャック・グルニエ



夜半のミサ(確かに零時からですよ!)。そして早朝のミサ、日中のミサ(午前1時半、また2時からでした)。これは私の小学生時代のクリスマスミサの状況です。

実際、私が教会のクリスマス初めて体験できたのは、おそらく3年生の時だったでしょう。でも、そのとき、聖堂では二人の姉のそばには立っていませんでした。なぜならば、私は1時半から行われるミサ(いわゆる《早朝のミサ》)に学校で練習してきた聖歌隊の一員として与かっていたからです。そしてそのミサの間、私たち子どもは、ほとんど休憩なしに30分間、一生懸命、豊かなカロリングを列席の方々へ提供していました。

お母さんは下の妹と弟と一緒に家にいました。そのルイズちゃんもポール君も部屋でぐっすり眠っていたようです。とにかく真夜中の2時半~3時になって、夢のように美しいお祝いの中で目覚めるまではそうしていたようです。午前3時になると、やっと全家族が揃ってクリスマス本番のパート2へ移ることができました。そうです、その時間になると、「やった!」という感じでお父さんも職場から戻ってきました。お父さんは今までずっと教会にいたのに? どういうこと? ... そうです! 私の父の仕事は毎日小教区に勤めた形になっていたのです。ミサ道具の準備をしたり、聖堂いっぱいの花や諸飾りを整えるのを、父が責任者として担っていたのです。しかも番人も兼ねていたので、みんなの後から教会を出なければならなかったのです。

教会は私たちの家から遠くはありません。通りの向こう側に建っていました。その夜、僕たち子どもは教会の窓へ視線を注ぎながら本当にじりじりと待っていました。その瞬間、「教会はすべて光が消えた!」「お父さんが入り口の扉のかぎを閉めているよ!」。みなは大喜び!! 次は? プレゼント交換! 明るい笑い声。それから、母が数日前からいろいろ準備に没頭して作ったすばらしい『レヴェイヨン』(=眠りを覚ます祝いの食事)のテーブルをみんなで囲みました。七面鳥、ドーナツ、楽しい形にしたケーキ、など、など。すべてが光っている感じ。その夜こそ、近所のどの家も生き生きとして、そしてその中にいる人々は、もちろん誰も寝ないだろうと感じられる雰囲気でした。およそ50年前のメルヘン的なクリスマス場。

クリスマス祝うやり方はいろいろです。時代によって、また事情によって輝き方が異なります。だからこそ、今年の『ノエル』も、全世界を心に留めながら、みんなの心を高揚させる主イエスの誕生を大いに伝える場となるように祈ります。いのちの与え主ご自身が、ある夜ベツレヘムで、人類全体を華麗に驚かせた出来事にふさわしい祭りにしていきたいものです。互いにそのようにプレゼントを提供しましょう。

ミサ当番表 (2004年12月)

月/日	第一朗読者	第二朗読者	共同祈願	奉納	オルガン	侍者	先唱者	準備係
12/5	小野	楠田	小野	小野・町田	保科	石崎・石井	小野寺	井上・大宮
12/12	青年会	青年会	青年会	青年会	岩淵	石井・永田	東原	中谷・青柳
12/19	山田	下村	鈴木	山田・松尾	森田	森脇・石原	福島	丸田・下村
12/24		石井	岩崎		岩淵	石井・下迫		
12/25					保科			
12/26	井上	江尻	井上	井上・松尾	森田	美庭・森脇	萩原	松下・松尾

聖体の秘跡について

阿部 映子



10月11日、雪の下教会において、カテキスタ会の公開講演会が開催されました。講師は、典礼研究では第一人者であられる、福岡サンスルピス大神学院の白浜満神父様です。カトリック新聞の「典礼をやさしく学ぼう」を連載していらした神父様です。186名の参加でした。

教皇様が今年10月17日より一年間を『聖体の年』と定められたことを受けて、「聖体の秘跡」について講演されました。大変意義深いお話でしたので、共に分かち合いたいと思い、まとめてみました。

① 聖体について

「わたしが命のパンである。信じるものは永遠のいのちを得る。わたしが与えるパンとは、世を生きるためのわたしの肉のことである。わたしの肉を食べ、わたしの血を飲むものは、いつもわたしの内にあり、わたしもまた、いつもその人の内にいる」(ヨハネ6章)

聖体の制定は、過越の日にイエスが「聖体の秘跡」を定め、私達に最大の恵みを与えてくださったのです。ですから、聖体拝領が、キリストのいのちを受けるだけにとどまらず、キリストと共に自分自身を奉獻するという行為へと発展していくことが求められます。神は、最後に、人間の食べものになられたのです。食べものは、食べる人にすべてを与えます。

聖体とは、神が人間にすべてを与えてくださった賜物です。神は人とひとつになられることを望んでおられるのです。どれほど素晴らしい賜物であるか理解できることと思います。

聖体は、死んで復活されたキリストのいのちです。ミサは、神との約束の場、復活されたキリストとの出会いの最高の場です。キリストの現存、キリストの生涯をしっかり理解して与かってください。ミサに与かる私達すべてが、キリストのいのちを頂く恵みと、またキリストの言葉に与かりながら人としての生命とを与えられています。

ミサにしっかりと与かってください。遅刻をすることはいけません。意識(心)を父である神の愛の心に近づけてください。私達のいのちを復活のいのちに導いていくための糧なのです。

② 聖体についての宗教改革者たちの見解

イ) ルター：パンとぶどう酒の「なかに」、それらと「ともに」、あるいは、それらの「もとに」、キリストの肉と血が現実的に共存している。この現存は、祭儀中のパンとぶどう酒の祝福の時から拝領までの間である。【註：聖公会も同じで、拝領が終わり残ったものはキリストの肉、血ではない。聖公会の信者は、カトリックのミサで聖体拝領をすることができるが、カトリックの信者が聖公会の聖餐式で聖体拝領ができないのは、この理由である。】
ロ) ツィングリ：キリストの体は天国にあり、地上に実在することはあり得ない。パンとぶどう酒は、単なる象徴にすぎない。

ハ) カルヴァン：聖餐におけるパンとぶどう酒は、実体的にはパンとぶどう酒であって、その用法が変化するにすぎない。聖餐におけるそれらは、あくまでも「しるし」である。拝領の瞬間に「真に現臨」し、われわれがキリストの肉と血にあずかるという出来事が起こる。

ニ) 1951年のカトリック・クレセント公会議：聖霊の働きによって、キリストのからだ、血となる。パンとぶどう酒がキリストのいのちに変化する。聖体はキリストの復活したからだである。

③ ミサについて

ミサは、キリストに出会うために皆と集まり、祈り、聖体拝領をすることが約束されています。ですから、神の約束の時間に遅れることは悲しいことです。聖体の秘跡を考え、キリストとの出会いを大切にすれば、ミサの時間に間に合うようにすることが大切です。集合の中におられるキリストとの出会いに遅れてはいけません。

キリストからのいのちを、周りの人々や生活の場で、「愛」の行為として分け与えなければなりません。キリストの生涯にしっかりと与かりたいなら、ミサにしっかりと与かりましょう。二千年前と同じ恵み、言葉をいただくいのちに与かるのですから。

聖体は、キリストが復活されたように私達も復活し、霊になるための宝です。教会の中で、霊の賜物がはっきりと理解され、生き生きとしますように！

④ 典礼以外でキリストに出会う

「私の兄弟であるもっとも小さい者のひとりにしたことは、すべて私にしてくれたことなのである」(マタイ25章)

白浜神父様の暖かみのある、おだやかな話しぶり。時にはユーモアを交えて笑わせたり、時には厳しいことを話されたりで、反省させられ、また大きな感銘を受けた一日でした。

教会に住んでいるのは私達共同体なのです。教会の中のすべての垣根をなくし、一人ひとりが神様に結ばれている大切な存在として尊重されますように。

自分が教会の中にいることで、周りの人々が安心してくださる自分になるように心がけたいと思います。

ミサ当番表 (2005年1月)

月/日	第一朗読者	第二朗読者	共同祈願	奉納	オルガン	侍者	先唱者	準備係
1/2		森田		宮崎	保科	下迫・石井	福島	花坂・大原
1/9	青年会	青年会	青年会	青年会	岩淵	石原・石井		井上・大宮
1/16		小山	小野	清水	森田	石崎・内田		中谷・青柳
1/23		石井		七浦	保科	石井・永田		丸田・下村
1/30		岩崎	石井	町田	岩淵	美藤・石井	萩原	松下・松尾

閑話休題 (むだばなし)

清水 聖



「弘法大師」まんま食うかい「空海」と、悪童のころ歴史上の人物を、覚え易く遊び心を興じたものです。中国・朝鮮・日本には、共通の漢字の文化が継承されています。日本では、「ひらがな」の普及により、公文書、文学の表現が発達し、立派な文化に発展し、歌道、書道を始め文学作品に優れた足跡を沢山残しています。

弘法大師は、「ひらがな」の生みの親と言われています。浅学のため其の根拠を把握していませんが、巷間の説をとらせて頂きます。身近な処で、時代劇の寺子屋の手習いの風景。火事と喧嘩は江戸の華、大岡越前守の町火消しの設置、いろは・・・を組名に。落語の枕詞に、いろはのはの字を忘れ、色(いろ)ばかりの風刺。

どうも雑学に走りまして。すっかり庶民に根付いた、いろはにほへとちりぬるを・・・を考えてみましょう。「色は匂えど散りぬるを、吾が世たれぞ常ならむ、有為の奥山京越えて、浅き夢見し映もせず」これが、いろはにほへと・・・四十八文字の基になります。

余談ですが、一筆。国語教育が昭和の初期に示され、「あかさたなはまやらわ」あいうえお、かきくけことなりました。いろはにほへとの中には、弘法大師が文字と人の道を教え広めた、何かが含まれているのではと思われま。

「花は咲いても、たちまち散り、人は生まれても、やがて死ぬ。無常は生あるものの、まめかれない運命である」と訳されています。

子供の頃、遊んだ、「いろは」かるたを思い出しながら、此の稿を終ります。

弘法大師 774~805 (61才)
伝教大師 767~822 (55才)
両大師 804 渡中国

は・・・花より団子 センスがないですね。

平成十五年六月十五日

お知らせ

① 初聖体おめでとう! (11月21日)

パウリノ 石井 築雄くん
ベルナデッタ 森脇 真美さん

② ご結婚 おめでとうございます。

アロイジオ 荒木 秀和さん (11月3日、東京カテドラルにて)
稲垣 佳世さん
島田 政春さん (11月23日、中和田教会にて)
テレジア 村上 恭子さん

③ 待降節黙想会、ゆるしの秘跡

12月4日(土) 午後2時~3時 黙想会(久我純彦神父様)
3時~4時 ゆるしの秘跡
4時~ 待降節第2主日ミサ

④ 大掃除 12月18日(土) 午前10時から

⑤ 降誕祭のご案内

12月24日(金) pm. 8時から 主の降誕・夜半ミサ
25日(土) am.10時から 主の降誕・日中ミサ

⑥ 「泉区民クリスマス」 12月23日(木・祝)午後2時から

緑園都市・フェリス女学院大・グリーンホール

⑦ 婦人同志会からのご報告とお礼 (阿部映子さん)

去る10月31日に行なわれましたバザーで、同志会として雑貨と佃煮を売らせて頂きましたが、そのご報告をさせていただきます。

雑貨による純益 11,550円
佃煮による純益 10,750円
純益合計 22,300円

この純益金は、教区の高齢司祭のために寄付させていただきます。みなさまのご協力に感謝いたします。

